

子宮移植是非、日本医学会が検討委 倫理面や安全性を議論

12/8(土) 19:58配信



子宮がない女性に第三者から移植して妊娠・出産につなげる「子宮移植」の国内実施について、日本医学会が検討委員会を設け、倫理面や安全性などの課題を検討することが決まった。親族間の子宮移植の臨床研究を目指す慶応大から計画の提出を受けていた日本産科婦人科学会が8日、日本移植学会と合同で医学会に申し入れたことを明らかにした。

子宮移植については、検討課題が多岐にわたることから、生殖医学や周産期医療、小児科などの専門家も加えた体制で、指針作りなどの検討を近く始める。日本の臓器移植法は脳死を含む死者からの子宮提供は認めていない。このため、検討委ではまず生体間での移植を議題とする。

子宮移植は心臓や肝臓のように生命維持のためではなく、出産目的で臓器を移植する倫理的問題が指摘され、免疫抑制剤の長期使用による胎児への影響など不明な点もある。【千葉紀和】

子宮移植、日本医学会で議論

12/8(土) 19:08配信



日本産科婦人科学会は8日、生まれつき子宮がない女性に第三者の子宮を移植する慶応大の臨床研究の計画について、さまざまな医学系学会が加盟する日本医学会で検討する方針になったと発表した。

この治療は妊娠出産が目的だが、安全性や倫理面の課題について、臓器移植や生殖、生まれた子のケアなど幅広い観点から実施の是非を議論する必要がある。このため、多分野の専門家が参加しやすい日本医学会に依頼したという。

慶応大が11月に日本産科婦人科学会と日本移植学会に見解を聞くために計画案を提出したのを受けた。海外では出産例があるが、国内で実施されれば初のケースとなる。